

侍 72

48

岩手縣下釜石鑛山報告書

特72
48

肅啓會員千葉胤昌氏ハ去月十四日ヲ以テ東京ヲ發シ岩手縣下
釜石鑛山ニ赴カレ實地探查サレタル結果トシテ左ノ報告有之
候ニ付不取敢御參考迄ニ御一覽ニ供シ候也

右鑛山細圖アレト遺憾ナカラ畧ス



釜石鑛山



岩手縣陸中國南閉伊郡釜石鉄山ハ舊工部省廢業ノ後ニ田中長兵衛氏其拂下ヲ受ケ製鉄
業ヲ起創シ爾來當今ニ至ルマテ數多ノ失敗ヲ嘗メ漸クニシテ今日ノ結果ヲ見ルニ至リ
テモノナリ現今製鐵工場ハ釜石町字鈴子及ヒ甲子村字大橋ノ二箇所ニアリ但シ大橋工
場ハ鈴子工場ノ分工場ナリ

工場位置。鈴子工場ハ東ニ釜石灣ノ小良港ヲ擁シ海濱ヲ隔ル僅ニ拾九町ナリ海濱ニハ
棧橋ノ設アリテ一二百噸積ノ船ヲ横着ケニスルヲ得ベク又釜石港ヘハ時々風帆船ノ寄
港スルアリテ海運甚ク便ナリ銑鉄重量壹噸ニ付東京ニ至ル賃錢ハ凡ソ貳圓ニシテ函館
ニ至ルハ凡ソ壹圓五拾錢ナリトス

大橋工場ハ鈴子工場ヲ西ニ隔ツルコ四里拾五町ニシテ海拔二百五十六米突ノ高サニアリ釜石鉄鑛探堀ノ地ニ接近ス大橋工場ト鈴子工場トノ間ニハ官行ノ際甲子川ニ沿ヒ鉄道ヲ布設シタルノ道路尙ホ存スルヲ以テ道路ハ平坦ニシテ車馬ノ運輸ニ便ナリ地勢 釜石鉄鑛床ハ南及西閉伊ノ兩郡ニ跨カル片羽山ノ周邊及南閉伊郡大橋山近傍ノ山腹ニ散在ス而シテ鉄鑛床ノ青木、六黒見、及、高前、ニ散在スルモノヲ除キテハ概子田中氏ノ借區内ニ係ハリ其數十有五箇所アリ 前山、除キノ澤、垂レ水、大仙山、瀧ノ洞、高前、瘦駒、而シテ鑛床ノ露表スル所ハ概ネ峻阪險崖ノ地ニ属スルヲ以テ運搬從テ自在ナラサルモ現今探堀ニ着手スル前山、新種山、元山、及ヒ佐比内ヨリハ運搬較々便ナリトス

前山、鉄鑛床ハ大橋工場ニ接近スルノ地ニアリト雖モ鑛石多量ナラス僅ニ鋪堀ヲナシテ時々少量ノ鑛石ヲ探堀スルノミ運搬ハ僥ヲ供用シ甚タ不便ナリトス
 元山、佐比内、及ヒ硫黃洞、ハ釜石大鉄鑛床ノ存在ノ地ナリ 地圖 此等ノ産地ハ北ニ片羽山ノ秀峯ヲ負フヲ以テ冬期ハ積雪早ク爲メ十一月下旬ヨリ四月ニ至ルノ間ハ時々休業セサルヲ得サルノ地域ナル由 當今露天堀ヲナスヲ以テ冬期ハ休業セサルヲ得サル以上現今探堀地中元山新種山及硫黃洞ハ各々相接近シ大橋工場ヲ隔ツル一里内外ノ山

腹ニ存在シ其山嶽ハ皆大橋谷ニ急斜スルモノトス故ニ當今工場ヨリ中出ニ至ルノ間拾五町ノ間ハ既ニ輕便鉄道ノ布設アレハ新種山ヨリ山腹ニ沿ヒ中出ニ聯絡スルノ鉄道ヲ布延セハ元山、新種山及硫黃洞、ヨリ鑛石ヲ運搬スル極メテ便ナルヲ以テ目下之ニ着手セントス此工事落成セハ鑛石ノ運搬ハ一層便利ヲ増シ經費モ頗ル節減スルヲ得ルナリ

大橋工場ヲ距ル 一里拾五町 雖モ佐比内ハ元山ヨリ佐比内峠ヲ經テ佐比内澤ニ面スル山腹ニアリ
 中出ヨリ新種山ニ通スルノ輕便鉄道布設ノ後更ニ佐比内ヨリ鉄道線路ニ向ヒ墜道ヲ開鑿スルノ設計ノ由此レカ成効ノ曉ハ運搬困難ナラサルヘシ
 鑛床。鑛床ハ磁鉄鑛床ニシテ鑛脈ニ非スシテ鑛層ナリ其散在ノ大要ハ地圖ニ於テ示スガ如シ而シテ鑛石ノ量ハ大塚農商務技師ノ確實ヲ主トシ極小的ノ計算ヲ爲シタルモノナレハ其量ハ大ニ増加スヘキモ是ヨリ減少スルカ如キ事ハ万ナカルヘシ故ニ鑛石ノ量ニハ缺乏セサルナリ 鑛層ノ厚サハ大路地 圖ニ於テ之ヲ示ス

將來ノ計畫及現今ニ至ルマテノ景况。田中製鉄所創業以來今日ニ至ルマテ着々起業設計シテ遂ニ現今ノ好結果ニ至リシモノニシテ左ニ創業以來ノ製銑高 事務所ノ諸帳簿ニシテ確實ヲ掲ケ以テ今日ノ盛況ニ向ハシトスルニ至リシ一斑ヲ示サントス

明治十八年自一月至十二月

三百拾貳噸余

同 十九年同 銑鉄

七百〇三噸余

同 二十年同 同

千四百五拾七噸余

同 廿一年同 同

千九百〇五噸余

同 廿二年同 同

貳千九百五拾五噸余

同 廿三年同 同

三千七百七拾五噸余

同 廿四年同 同

五千三百七拾貳噸余

右表ノ如ク年々ニ銑鉄製造ノ噸數ヲ増加シタルハ鑛爐ノ改築ト其増設トニ因ルモノナリ尙ホ今年ノ如キハ釜石鈴子ニ木炭鑛爐一坐ヲ増設シ且ツ從來ノ鑛爐ヲ改良セシヲ以テ出銑ノ量ヲ増加シタリ左ニ當今ノ出銑高ヲ示ス

釜石鈴子

木炭鑛爐

三坐

一晝夜ノ銑出高

拾四噸半

大橋

木炭鑛爐

二坐

一晝夜ノ銑出高

拾壹噸半

平均一晝夜ノ製銑高ヲ貳拾六噸トスレハ一ヶ年ニ凡ツ九千噸ノ銑鉄ヲ製造スルヲ得ルナリ乃チ今日ノ景況タル昨年ニ較フレハ三千六百餘噸ノ増加ヲ見ル

尙ホ向後着手セントスルノ豫定ハ本年中ニ橋野村ニ木炭鑛爐ヲ壹坐 一晝夜ノ出銑高六噸半 明年ニ

佐比内鉄山ニ全鑛爐一坐 一晝夜ノ出銑高五噸 ヲ増設スルノ見込ニシテ着々事業ヲ擴張セントスルノ計畫ナリ

釜石近傍ニ木炭山少ナシトセス即チ田中所有地ニ關ハル小川、平田、土倉、鍋倉、水海、及佐田内、其他上郷村、有住村、栗橋村、及鵜住居村、ニ官私ノ山林アリ然レトモ木炭ノ供給タル制限アリテ到底長日月間巨大ナル事業ノ需用ニ應スルヲ能ハサルモノナリ今後製鋼所設立ノ曉ニハ銑鉄ノ需用無限増加スルニ至レハ益々之ヲ奨勵シテ其事業ヲ漸次擴張セシメサルヲ得ス其法ハ第一ニ木炭ニ換ルニ北海道石炭ヲ用ヒ又舊官行ノ際ニ建設シタル骸炭大鑛爐二坐モ亦々運轉セシムヘシ該鑛爐ヲシテ運轉セシムルヲ得ルノ秋ニ至ラハ二坐ヲ以テ一晝夜ニ必ラスヤ五六拾噸ノ出銑アルナルヘシ而シテ其製造高ハ一ヶ年ニ平均貳万噸トスレハ大差ナカルヘシ

如此釜石ニハ既設木炭將來ハ石炭ニ換ユベキモ 鑛爐五坐アリテ其製造高ハ當今ノ出銑量ヲ以テ推
 算セハ一ヶ年ニ九千三百六拾噸ノ銑鉄ヲ製出スルヲ得ルナリ而シテ明年中ニ豫定ノ木
 炭鑛爐ヲ橋野及佐比内ニ二坐増設スルヲ得ハ其製造高ハ合計一ヶ年ニ壹万三千五百噸
 下ナルヘシ加之既設骸炭大鑛爐ヲ運轉スルノ時ニ至ラハ其大鑛爐ノミニテモ(凡ソ一
 ケ年ニ貳万噸ノ銑鉄ヲ製出シ得ベシ故ニ釜石鑛山ハ將來ノ計畫成就セハ同山ノミニテ
 モ)凡ソ壹ヶ年ニ三万四千余噸ノ銑鉄ヲ製造スル難キニ非サルベシ

附言 銑鉄壹噸ヲ製造スルニ木炭ノ量ハ殆ント之ニ倍スルヲ以テ多量ノ銑鉄ヲ製セ
 ントセハ木炭ノ需用噸ニ増加シ長日月間ニ、製費必ラス嵩ムヘシ故ニ永遠ニ鉄業ヲ
 擴張シ多量銑鉄ヲ製セントセハ骸炭ヲ使用セサル可カラス骸炭ハ木炭ニ比シ壹噸ニ
 付キ殆ント貳圓ヲ超過スルモ長日月間ニ之ヲ多少使用セハ經濟上必ラス利潤アルナ
 ルヘシ

官行ノ際設置シタル骸炭大鑛爐二坐ハ少シク修繕ヲ加フレハ之ヲ運轉スルヲ得ヘシ
 當今釜石銑鉄ノ市下ニ於ケル賣價ハ左ノ如シ

特別一號銑鉄 壹噸 貳拾六圓五拾錢
 一號 全 貳拾四圓

二號 全 貳拾貳圓
 三號 全 拾九圓五拾錢
 白銑鐵 全 貳拾三圓五拾錢

備考

本文記載ノ如クナリトセハ工部省ハ數百万圓ヲ費シタル此事業ヲ何故ニ廢止セシヤヲ
 疑ハサルヲ得ス故ニ予カ取調タル事實ニ依レハ工部省ハ年々參拾万圓余ノ損失支給ノ
 途ナキト當時銑鉄ノ需用今日ノ如クナラサルニ因レリ其理由ノ概略左記シテ備考ニ供

- (一) 邊陲ノ地ニ卒然大工業ヲ起シタル爲メ總テノ供給ニ不足ヲ生シ人馬ノ雇賃及ヒ物
 價等モ非常ニ暴騰シテ例セハ木炭ノ如キハ拾貫目四拾錢迄ノ高直ニ達シタリ而シ
 テ現今ノ價ハ十貫目拾貳錢ニテ殆ント四分ノ一ナリ
- (二) 事態此ノ如クナレハ物品ヲ購フニ前金ヲ與フルニ非サレハ持來ラス既ニ前金ヲ拂
 渡ス時ハ十中ノ五六ハ失踪或ハ狡猾邪智終ニ之ヲ蹂付ケ棄テ、顧ミサル有様ナル
 ヲ以テ前貸金ハ追々積ンテ巨額トナルモ物品ハ供給セサルヨリ益々損耗ヲ蒙リタ

ル

(三) 近傍ノ樹木ヲ伐採シ盡シタル

(四) 俸給經費ノ非常ニ過大ナリシ

(五) 職工ノ不熟練ナリシ

(六) 當時鏡鉄ノ需用未タ盛ンナラザリシ

(七) 而シテ茲ニ非常ノ出來事ノ起ルアリテ遂ニ深鐵事業ヲ廢スルニ至リタル其最大近

因ハ木炭ノ欠乏ヨリ止ムナク磐城石炭(當時北海道石炭ハ未ダ入港セザリシ由)ヲ使用セシニ炭質惡

クシテ火力微弱加フルニ職工不熟練ナレハ大鑛爐ニ煙内ノ鐵ハ鎔解スルコナク冷

却シテ一大塊トナリ爐内ニ固マリ付キ如何トモ爲スヘキ様ナキ一大難事ヲ惹起セ

リ然レトモ此失敗ヲ明白スルヲ嫌ヒ同所ノ管理者ハ全ク此事實ヲ隱蔽シテ鐵ノ産

額甚タ僅少ナル爲メ事業ヲ繼續スル能ハスト主張シ遂ニ之ヲ廢止セリト

右及御報告候也

明治二十五年八月六日

千葉胤昌

政務調査所 御中

明治廿五年八月十六日印刷

(非賣品)

全年七月十七日出版

宮城縣栗原郡文字村

編輯兼
發行者

千葉胤昌

現時東京市赤坂區仲ノ町
三番地壹岐ヒテ方

兵庫縣士族

印刷者

梅村之芳

東京市芝區公園地第十四
號ノ九番地稻川利徳方

宮城縣栗原郡文字村

千葉胤昌

現時赤坂區仲ノ町三番地壹岐ヒテ方

赤坂溜池町公友舎印行

特 72

48

岩手県下釜石鉦山報告書

301590-001-6

特72-48

岩手県下釜石鉦山報告書

千葉胤昌 / 編

M25.8

CDH-0001



- (三) 近傍ノ樹木ヲ伐採シ盡シタルヲ
- (四) 俸給經費ノ非常ニ過大ナリシコ
- (五) 職工ノ不熟練ナリシコ
- (六) 當時銑鉄ノ需用未タ盛ンナラザリシコ
- (七) 而シテ茲ニ非常ノ出來事ノ起ルアリテ遂ニ採鐵事業ヲ廢スルニ至リタル其最大近因ハ木炭ノ欠乏ヨリ止ムナク磐城石炭(當時北海道石炭ハ未ダ入港セザリシ由)ヲ使用セシニ炭質悪クシテ火力微弱加フルニ職工不熟練ナレハ大鑛爐二臺内ノ鐵ハ溶解スルコナク冷却シテ一大塊トナリ爐内ニ固マリ付キ如何トモ爲スヘキ様ナキ一大難事ヲ惹起セリ然レトモ此失敗ヲ明白スルヲ嫌ヒ同所ノ管理者ハ全ク此事實ヲ隱蔽シテ鐵ノ産額甚タ僅少ナル爲メ事業ヲ繼續スル能ハスト主張シ遂ニ之ヲ廢止セリト

右及御報告候也

明治二十五年八月六日

政務調査所 御中

千葉胤昌

明治廿五年八月十六日印刷
全一冊 全年七月十七日出版

(非賣品)

編輯者

宮城縣東原郡文字村 千葉胤昌

印刷者

兵庫縣土佐 梅村之芳

現時東京市赤坂區仲ノ町
三番地書販ヒラカ

東京市芝區公園地第七四
號九番地利和徳カ